TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

エフェソの信徒への手紙 - 恵みのスペクトル

家庭から始まる全世界の和解　エフェソの信徒への手紙 5 章 22－33 節

2026 年 10 月 3 日 &4 日
ジェシー・セザリオ　牧師

ご挨拶
私たちと共に礼拝している皆さん、TBC ウェスト トウキョウ、TBC 三郷、スバ、そしてトンガ・バプテスト教会の皆さんにも、ご挨拶申し上げます。
私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安が皆さんと共にありますように！
祈りましょう。

はじめに ― 全世界の和解
さて、このシリーズを続けて聞いてくださっている方なら、そこで起きている、とてつも無いことについてお話ししたのを耳にしておられることと思います。それは、ある意味では秘義でした。そして、一部の人にとっては今もなお秘義のままです。
その秘義とは、神が、メシア（救い主）であるイエスを通して、全世界を贖っておられるというものです。言わば、神は、かつてご自身が言われたように、ご自身の基準と御心に従って、全世界を「非常に良い」ものとなるように修復しておられるのです。
全世界の贖いはすでに始まっています。そして、それはイエス・キリストが来られたことによって始まりました。これが、人類に対する良い知らせ（Good News）の啓示です。
良い知らせとは何か、もう一度思い出してください。

ヨハネ 3:16「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

ローマ 8:21
「それは、被造物自身も滅びへの隷属から解放されて、神の子どもたちの栄光の自由に入るという希望です。」

エフェソの信徒への手紙 1:9－10
「[9]御心の秘義を私たちに知らせてくださいました。これは、前もってご自身でお決めになっていた御心によるものであって、[10] 時が満ちるというご計画のためです。それは、天にあるものも地にあるものも、あらゆるものが、キリストのもとに一つにまとめられることです。」

バプテスマのヨハネは、イエスについてこう言いました。
ヨハネ 1:29「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」

今この時、イエス・キリストは、父なる神の右の座、すなわち御座に着いておられます。その権威は確立され、有効になっているとはいえ、この地上では、まだ完全とは言い切れません。
ですから、その間、私たちはこの地上で、私たちの父なる神と私たちの隣人との間の和解についての良い知らせを伝えるのです。
私たちが肉にある間は、和解は起こりません。パウロは、肉は腐敗しているので、そこには何一つ良いものがないと言っています。彼は、肉と血は神の国を受け継ぐことができないことを知っています。肉は、あなたと神との間の和解にも、あなたと他の誰かとの間の和解にも、何ももたらしません。
真の和解は、御霊によってのみもたらされ、御霊によってしか実現されません。

ガラテヤ 6:8 「自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に蒔く者は、霊から永遠の命を刈り取ります。」

御霊ご自身が、神の御言葉の中で、私たちは御霊のうちを歩むべきであり、御霊によって歩むべきだと教えておられます。パウロは、エフェソの信徒への手紙 5 章の冒頭で、これは、愛のうちに歩むことだと言っています。なぜなら、神は愛だからです。

さて、私は、人々が聖霊の祝福とは何なのかを誤解していることに気づきました。なぜ自分の人生に聖霊を求め、なぜ聖霊の御力を求めるのかについて、気をつけなければなりません。
聖霊の祝福を誤解するのは、とても危険なことです。特に、聖霊を、自分を高めたり、個人的な利益を得たりするための手段として見るなら、なおさらです。使徒言行録 8 章に出てくる、魔術師シモンがそうでした。
皆さんもその話をご存じでしょう。

ピリポがサマリヤへ行ったとき、そこにいた魔術師シモンは信じて、バプテスマを受け、ピリポについて行くようになり、大きなしるしや奇跡を目の当たりにして、非常に驚きました。
そこへやって来たペテロとヨハネは、新しく信じた人々の誰にも聖霊が下っていないことに気づきました。
ペテロとヨハネが、これらのクリスチャンたちに手を置き始めると、彼らは聖霊を受けました。これを見た魔術師シモンは、自分も聖霊を授ける力を自分も持ちたいと思って、お金を差し出しました。
これは、まずい行動でした。
ペテロは、そうやって力を得ようとした彼を厳しく責め、「お金と一緒に滅びるがよい」と言いました。そして、彼の心は正しくなく、苦い思いによって毒され、不義に縛られていると告げました。

また、パウロが教えたことも覚えておきましょう。
1 コリント 12:7
「一人一人に霊の働きが現れるのは、全体の益となるためです。」

1 コリント 14:12
「同じように、あなたがたも霊の賜物を熱心に求めているのなら、教会を造り上げるために、それをますます豊かに受けるように求めなさい。」

賜物はあなた自身のためのものではありません。それは、キリストのからだである教会に仕え、教会を建て上げるためのものです。

適用1
イエスは、教会をどうしたいと言われましたか？それは、教会を建て上げることでした。
イエスが「わたしの教会を建てる」と言われたのは、どういう意味だったのでしょうか？
教会をビジネスのように建てるという意味だったと思いますか？教会がお金で溢れ、クリスチャンたちが大金持ちになるということでしょうか？不動産のことだったのでしょうか？イエスは何を意味していたと思いますか？

それは、誰であっても、すべての人をイエスのもとに導き、その人たちがイエスを知ることができるようにすることではないでしょうか？
あなたは、どのように教会を建てたいと思っていますか？イエスがご自身の教会を建てたいと思われた方法と同じですか？もしそうでないなら、あなたには問題があります。
御霊を通して行われるしるしや奇跡は、人々を神との和解へ導くための手段です。御霊の賜物はあなた自身のためのものではありません。むしろ、それは互いに仕え、失われた人々に福音を伝えるためのものです。
TBC のみなさん、これはあなたがたの願いですか？あなたがたの目標は、イエス・キリストと同じでしょうか？あなたは積極的に仕え、自分に与えられた賜物を用いて、教会を建て上げ、一人の人を神のもとへ戻すために働いていますか？これがあなたの目標ですか？これこそ、イエスの望んでおられることなのですよ。イエスは和解を望んでおられます！イエスは、私達が、失われた人々を、ご自身の家である教会へ導くことを望んでおられます。

コロサイ 1:19-20
「神は、御心のままに／満ち溢れるものを／余すところなく御子の内に宿らせ／その十字架の血によって平和を造り／地にあるものも／天にあるものも／万物を御子によって／ご自分と和解させてくださったのです。」
さて、和解の計画の中で、人類の始まりからすぐにうまくいかなくなった、3 つの関係について思い出してください。最初の 2 つは、神と、アダムとその妻エバとの関係、3 つ目は、カインとその兄弟アベルとの関係です。

こうした関係は、今まさに贖われつつあります。そしてパウロは、エフェソの信徒への手紙の中で、それがどのように進んでいくのかを教えています。しかし、神の計画はあまりにも壮大なので、パウロはそれを秘義と呼んでいます。

和解 — 21節

「キリストに対する畏れをもって、互いに従いなさい。」

21節は、かなり独特な節です。それは、世界におけるクリスチャンの歩みと、家庭の中におけるクリスチャンの行動を結びつける、話の転換点となる節だからです。

エフェソ 5:22–6:9 のこれらの節は、コロサイ 3:18–4:1、そして 1 ペテロ 2:18–3:7 とともに、しばしば「家庭訓(Household Code)」と呼ばれています。

パウロは21節で、私たちは教会として、神を畏れて互いに従うべきであると言っています。互いに従うことは、キリストにあるすべてのクリスチャンの態度であるべきです。言い換えるなら、主なる神への畏れから、私たちは自分を他の誰かよりも優れているとは考えません。私たちはすべての人に愛と恵みを与えるべきです。それは、キリスト・イエスにあって私たちに与えられたのと同じ恵みと愛です。キリストのからだの中に従順が存在するとき、つまり、私たちが神を愛し、神がご自身の体である教会を愛しておられることを知ることで、互いに愛し合い始める時、驚くべきことが起こります。あなたは、聖霊の臨在と力を目の当たりにするようになります。

それが、御霊によって歩むことです。

しかし、私たちの人生における権威は、神によるものだということを覚えておかなければなりません。

ローマ 13:1(NKJV)

「人は皆、上に立つ権力に従うべきです。神によらない権力はなく、今ある権力はすべて神によって立てられたものだからです。」

私がこう言うのは、22節でパウロは、実際には妻たちに「従いなさい」と言っていないからです。「従う」という言葉は、そこにはないのです！(妻たちは、「やった！」と思っているでしょう！)

ここに書かれていることは、「妻たちよ、自分の夫に、主に従うように従いなさい」ということです。しかし、妻たちが従うということは、キリストのからだの中での互いに従うことから導き出されます。そして、言語的にも、その意味はその前の節である21節の中にあります。

ですから、21節は、22節から6章9節までの「家庭訓」全体の出だしとなる節として機能しています。21節は、その後に続くすべてのことの前提となる、出だしの節です。

妻たち — 助け手として 22–24節

「[22]妻たちよ、主に従うように、自分の夫に従いなさい。[23]キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです。[24]教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。」

ですから、教会のからだにおける互いに従うことを前提として、パウロは妻たちに夫に従うように教えています。教会の従順が、妻の従順の土台です。

神の主権が私たちの権威者を定めているのと同様に、結婚を認めるのも神なのです。本当のキューピッドは誰でしょうか？神です！結婚についてイエスが言われたことを覚えていますか。「**従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。**」

あなたが結婚した相手は、あなた自身が選んだ人であるとは言え、最終的には、あなたたち二人を結びつけ、一つにされたのは神なのです。

つまり、妻たちよ、あなたの夫は、神があなたに従うように召された人なのです。夫は家庭の頭です。それは、キリストがご自身のからだである教会の頭であるのと同じです。

私がカップルの結婚前カウンセリングをするとき、これが実際の生活の中でどのようなものか、実際的な例を一つ示すことがよくあります。私たちは多国籍の方が集う教会なので、夫と妻がそれぞれ別の国の出身であることがよくあります。特に現在の政治情勢では、日本での滞在ビザが更新されない事態がいつ起こるか、誰にも予測できません。そうなると、妻は決断を迫られるかもしれません。

そこで私はこう尋ねます。「もしあなたの夫が、日本の滞在資格を失った場合、必要なら、夫の国に戻る準備ができていますか？」

何度かこの質問をすると、一瞬、沈黙と考える時間がありますが、そのたびに将来の妻は、「はい」と答えます。

それから私はたいてい、こう尋ねます。「では、もし夫が、単に自分の国に戻りたいと望んだら、あなたも彼について行くことを望みますか？」また、その瞬間に沈黙があり、そして毎回、彼女は、「はい」と答えます。

私がこういう質問をするのは、彼女たちを怖がらせるためではなく、新しく始まる家庭が、どう機能していくべきか理解する準備をしてもらうためです。

なぜなら、24節の最後に何と書かれているか、指摘しておきたいからです。

妻たちは夫に従い、服従するように言われています。それは「すべてにおいて」です。

これが難しく聞こえることは分かります。しかし、結婚の中で互いに補い合う役割の力学を本当に理解すれば、実は心が解放されることもあるのです。

妻は、主に従うように、夫の決定に従うべきです。ただし、それは聖書が語っていることと一致している場合に限ります。言い換えれば、妻が「すべてのこと」において従うのは、それが罪にならない範囲においてです。なぜなら、どのような場合であっても、妻は結婚の一致のために、服従を通して夫を補うように召されているからです。しかし、服従するということは、妻が黙ったままで、永遠に自分の意見を言わずにいる必要があるという意味ではありません。むしろ、妻は夫の助け手となるように召されています。これは、エデンの園での神の意図でした。主なる神は創世記 2 章でこう言われました。

「**人が独りでいるのは良くない。彼にふさわしい助け手を造ろう。**」

夫の助け手となることは、あなたの召しです。しかし、それは奴隷になるということではありません。むしろ、あなたが持っている才能や、御霊によって与えられた賜物を用いて、それを夫に差し出すということです。あなたは助けるためにそこにいるのです。つまり、夫には足りないところがあり、あなたの助けを必要としているということです。

もちろん、これは夫に助言や意見、知恵を与えることも意味します。そして、夫が決めたこと、あるいは決めようとしていることにあなたが同意できないときには、従う姿勢と恵みをもって、愛をもって自分の考えを伝えることです。常に、夫が祈りの中で主を求めるように励ましてください。そして、どのように主のために生きるかに目を向けられるように助けてください。そうすることで、夫の人生が、主に向けられた礼拝の生きたささげ物となるようにするのです。

そして、これが解放をもたらす理由は、夫が家庭の頭であるということは、最終的に、なされる決定について責任を負うのは夫だということだからです。夫には、あらゆる意味において、あなたが満たされるようにする責任があります。それは、霊的にも、精神的にも、身体的にもあなたを支えることです。

さて、次は夫たちについてです。

夫たち—救世主として

「[25]夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のためにご自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。[26]キリストがそうなさったのは、言葉と共に水で洗うことによって、教会を清めて聖なるものとし、[27]染みやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、傷のない、栄光に輝く教会を、ご自分の前に立たせるためでした。[28]そのように夫も、自分の体のように、妻を愛さなくてはなりません。妻を愛する人は、自分自身を愛しているのです。[29]これまで、誰もわが身を憎んだ者はいません。かえって、キリストが教会になさったように、わが身を養い、いたわるものです。」

ですから、妻は夫に従うように召されており、夫は妻を愛するように召されています。夫の妻に対する愛は、聖書が語っているように、子どもたちに対する愛さえよりも強く、この地上の誰に対する愛よりも強いものであるべきです。夫の愛は、キリストがご自分の花嫁に与えられた愛を見倣うものです。それは、妻を栄光あるものにするための愛です。

さて、結婚前カウンセリングでは、妻が、夫が世界の反対側へ引っ越したいと考えたとき、その夫について行って彼の故郷で暮らしたり、新しい仕事に就いたりすることについて、妻が夫に従う必要があるという話をした直後に、私は必ず、それと同時に、夫はそのような変化に妻が対応できるか、そしてその後もその生活を続けていけるかを、きちんと確認する必要があるということを明確にします。

例えば、私は夫にこう尋ねます。「もしあなたが引っ越したり、新しい仕事に就いたりした後、しばらくして、それが妻にとって精神的、霊的、あるいは身体的に明らかに困難なものになっていて、妻がそこでの生活に耐えられないことに気づいたとしたら、そのとき夫は、その決断をもう一度考え直す必要があります。もう一度引っ越さなければならないかもしれません。仕事をまた変える必要があるかもしれません。そこで尋ねたいのですが、あなたは妻を愛するためなら、何でもする覚悟がありますか？」そして、少し長い沈黙の後、たいてい夫となる男性は「はい」と答えます。

私がこのように尋ねるのは、「そのような変化を決してしてはいけない」と言うためではありません。むしろ、夫が、妻の必要としているものは、仕事のことだけではなく、夫自身の両親との距離のことだけでもない、ということを理解するためです。聖書には、男は父と母を離れ、妻と結ばれる、とあります。なぜなら、妻を大切にするのは、最も重要なことであり、聖書が命じていることだからです。

キリストが教会の頭であり、教会のためにご自身の命を捨てられたのと同じように、夫もまた妻の頭として、自分の命を捨てる者となります。そして、妻の健康が身体的なものであれ、精神的なものであれ、霊的なものであれ、それを心に留めながら、自己犠牲的で無条件の愛をもって妻に仕える者となるのです。
もし妻がそれに対応できないなら。もし妻が心身ともに崩れていき、苦々しい思いを抱くようになっているなら、それはあなたの結婚生活を反映しています。なぜなら、28節にあるように、「**妻を愛する人は、自分自身を愛している**」のだからです。夫は、妻と人生を分かち合いながら、言葉によって、そして心をもって、妻の教師であり、守る者であり、世話をする者であり、愛する者であるべきなのです。
役割については、聖書が語っていることそのものによって、かなり明確に定められていると思います。むしろ、問題は「何をすべきか」ではなく、「それをどのように行うか」にあると言えます。そして実際、それはシンプルな適用（application）なのです。

妻は、夫の喜びのなかに自分の喜びを見いだし、夫は、妻の喜びのなかに自分の喜びを見いだしなさい。**ローマ 12:15 ―「喜ぶ者と共に喜び」**なさい。
結局のところ、これは夫と妻だけに与えられた召しではありません。すべてのクリスチャンに与えられた召しです。すなわち、キリストのからだである教会を愛し、ひいてはキリストが愛しておられるもの、すなわちこの世を愛することによって、キリストを愛することに喜びを見出すことです。これに気づくと、驚くべきことには、夫と妻が主を愛し、主との絆を深めていくにつれて、互いへの愛も深まっていくということです。

適用 II
結婚生活において、和解を必要としている人もいるでしょう。この教会には、夫婦の間に痛みや葛藤があり、ときには互いに憎しみさえ抱いている夫婦もいます。そして、あなたが最初に自分自身に問いかけるべきことは、こういうことです。「もしキリストが、あなたの配偶者のような人を赦すために死んでくださるとしたら、あなたはどうするのですか？」なぜなら、神がキリストにおいて語っておられることは、誰もが赦してもらうべき存在ということだからです。
もちろん、時間がかかるかもしれません。険しい道のりがあり、もしかするといくつかのレンガの壁にぶつかることもあるでしょう。ですから、和解が起こるまでには時間がかかるかもしれません。しかし、問題は、あなたがそれを拒んでいるのか、それとも努力しているのか、ということです。和解することが、あなたの目標になっていますか？それは、あなた自身の気持ちを楽にするためではありません。単に、あなた自身が神にもっと近づくためでもありません。和解とは、相手が神に近づくのを助けるための、あなたの使命なのです。実際、この三角形のようなものは、すべての人間関係において起こることです。その人が神に近づいていくにつれて、その人はあなたにも近づいていくのです。

ヨハネの手紙一「1:7 しかし、神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます。」
これが、どのように働くのかということです。まず「和解」を理解することこそが、家庭や教会、そしてこの世の中で、あなたがどのように振る舞うべきかを教えてくれるのです。

テモテへの手紙一 3章15−16節
「15:私が遅れた場合に、神の家でどう振る舞うべきかを知ってもらうためです。神の家とは、真理の柱であり土台である生ける神の教会です。16:まぎれもなく偉大なのは、敬虔の秘義です。すなわち、／キリストは肉において現れ／霊において義とされ／天使たちに見られ／諸民族の間で宣べ伝えられ／世界中で信じられ／栄光のうちに上げられた。」
パウロは続けます。

新しい身体―秘義として
「30:私たちはキリストの体の一部なのです。31:「こういうわけで、人は父母を離れて妻と結ばれ、二人は一体となる。」32:この秘義は偉大です。私は、キリストと教会とを指して言っているのです。」
その秘義とは、和解です。そして、そのすべてが、私たちの人生に聖霊が来られ、働かれることを指し示しています。これが、キリストが十字架にかかられた理由です。それは、あなたと父なる神が和解するためです。しかし、和解はそこで終わりません。実際には、あなたと神との和解から、集団としての私たち、つまり教会へと、そしてそこからあなたとあなたの家庭へと広がって働いているのです。
福音にある聖霊の癒しの力は、私たちの人生の中でさらに働いていきます。それは、私たちの家庭から始まり、さらに民族や人種の間にある隔たりにまで及んでいくのです。

エフェソの信徒への手紙 2章
「13:しかし、以前はそのように遠く離れていたあなたがたは、今、キリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者となりました。14:キリストは、私たちの平和であり、二つのものを一つにし、ご自分の肉によって敵意という隔ての壁を取り壊し、」

エフェソの信徒への手紙 3章
「5:この秘義は、前の時代には人の子らには知らされていませんでしたが、今や霊によってその聖なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。6:すなわち、異邦人が福音により、キリスト・イエスにあって、共に相続する者、共に同じ体に属する者、共に約束にあずかる者となるということです。」

なぜ、**使徒言行録 8章**で、サマリアの人々には聖霊が降らなかったのか、知っていますか？その理由は、ユダヤ人とサマリア人の間に隔たりがあったからです。サマリア人は、自分たちはアブラハムの子孫だと主張していました。一方、ユダヤ人はそれを認めず、サマリア人がアッシリア人と結婚していたことを理由に、彼らを軽蔑し、アブラハムに与えられた約束の外にいる人々だと考えていました。使徒たちは、イザヤが語った約束はユダヤ人だけが受けるものだと思っていたのです。
イザヤはこう言っています。
イザヤ 44:3「私は乾いた所に水を／乾燥した土地に流れを注ぐ。／私はあなたの子孫に私の霊を／あなたの末裔に私の祝福を注ぐ。」

このことは、後に**使徒言行録第 10章**で、ペテロが異邦人のコルネリウスと共にいる場面にも表れています。ペテロは、異邦人がイエスの御名による水によるバプテスマを受ける前に聖霊を受けるのを目撃し、衝撃を受けました。ちなみに、使徒言行録に見られるパターンは、まずユダヤ人がイエスの御名によって水によるバプテスマを受け、**使徒言行録 2章**では、その直後に聖霊を受けました。次に、**使徒言行録 8章**では、サマリア人がイエスの御名によってバプテスマを受け、水のバプテスマを受けた後に聖霊を受けました。そして最後に、彼らにとって最も「ふさわしくない」と考えられていた異邦人が、まず聖霊によるバプテスマを受けました。そこでペテロは、「この人たち『異邦人』が水でバプテスマを受けるのを、誰が妨げることができますか」と言い、**使徒言行録 10章**で彼らに水のバプテスマを授けます。

使徒言行録には、聖霊によるバプテスマを受けるタイミングについて、決まった順序があるわけではありません。これらの出来事は、ペテロや他の使徒たちに、「誰でも聖霊を受けることができる」ということを示すために起こったのです。彼ら自身がそのことを目撃する必要があったのです。私たちは今日、「イエスを信じる人は聖霊を受ける」ことを知っています。ですから、パウロは聖霊の導きによって、**ガラテヤ 3章 14節**でこう語っています。
「14:それは、アブラハムに与えられた祝福が、キリスト・イエスにおいて異邦人に及ぶためであり、また、私たちが、約束された霊を信仰によって受けるためでした。」
このようにして、聖霊は世界を通して働きかけ、あらゆる世代の人々のために和解をもたらし、呪いを打ち消そうとしているのです。

聖霊は、今日、ユダヤ人と異邦人を一つにします（サマリア人、ローマ人、そしてユダヤ人の間にあった隔たりとは対照的に）。聖霊は、今日、兄弟たちを一つにします。（カインとアベル、イシュマエルとイサク、ヤコブとエサウとは対照的に）聖霊は、今日、夫と妻を一つにします。（アダムとエバ、ホセアとゴメルとは対照的に）
キリストと教会の結婚は、世界全体の和解そのものです。それは、あなたとキリストとの間から始まり、私たちの人生を通して、私たちの周囲の人々へと続いていきます。しかし、それは、これがあなたの使命でもある場合に限ります。世界との和解は、あなたの使命ですか？あなたの人生の中に、和解すべき人がいますか？

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://gotbc.org/sg4026jp

TBC カレンダー
（TBC のスケジュールが確認できます）
https://tokyobaptist.org/calendar

★クラス 301
自分の賜物を発見しよう！
10 月 10(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101, 201 を修了した TBC のメンバー

★クラス 210
スモールグループについて知ろう！
10 月 18(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

全クラスの申し込み：
https://t-b-c.us/classes

時間がかかるかもしれません。二歩前進して、一歩後退することもあるかもしれません。しかし、こうして一歩一歩踏み出し、御霊に導かれて歩んでいってください。

ガラテヤの信徒への手紙 5 章 22－26 節
「22:これに対し、霊の結ぶ実は、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、23:柔和、節制であり、これらを否定する律法はありません。24:キリスト・イエスに属する者は、肉を情欲と欲望と共に十字架につけたのです。25:私たちは霊によって生きているのですから、霊によってまた進もうではありませんか。26:思い上がって、互いに挑み合ったり、妬み合ったりするのはやめましょう。」

このようにして、私たちは家に戻ることができるのです。

まとめ
「33:いずれにせよ、あなたがたも、それぞれ、妻を自分のように愛しなさい。妻は夫を敬いなさい。」
どのようにして、夫は妻を愛し、妻は夫に愛を返すことができるのでしょうか。
コリントの信徒への手紙一 13 章
「4:愛は忍耐強い。愛は情け深い。妬まない。愛は自慢せず、高ぶらない。5:礼を失せず、自分の利益を求めず、怒らず、悪をたくらまない。6:不正を喜ばず、真理を共に喜ぶ。7:すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。8:愛は決して滅びません。」

あなたの妻や夫、あるいはあなたの周りの誰かが、あなたを見たときに、あなたが愛に満ちた態度でいると感じるかどうか、考えてみてください。「相手はそんなことに気づいていないかもしれない」と思うかもしれません。確かにそうかもしれません。でも、あなたはただその人に仕えているのではありません。あなたは主に仕えているのです。あなたの使命は、主のために愛することです。自分自身の力によってではなく、聖霊の力によって行うのです。

招き
あなたは、この力を得たいですか？あなたの人生におけるすべてのことについて、本当の和解をもたらすために、聖霊の力を頂きたいですか。

ヨハネ 7:37b–39a
「37:イエスは立ったまま、大声で言われた。「渇いている人は誰でも、私のもとに来て飲みなさい。38:私を信じる者は、聖書が語ったとおり、その人の内から生ける水が川となって流れ出るようになる。」39:イエスは、ご自分を信じた人々が受けようとしている霊について言われたのである。」

そして、聖書によれば、その方法は次のとおりです。

使徒言行録 2 章
「38:そこで、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼（バプテスマ）を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、聖霊の賜物を受けるでしょう。39:この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子どもたちにも、また、遠くにいるすべての人にも、つまり、私たちの神である主が招いてくださる者なら誰にでも、与えられているものなのです。」」

イエスを主でありメシアであると信じている方は、私か、または牧師の一人に声をかけてください。喜んでお話しさせていただきます。では、祈りましょう。

ジェシー・マーク・セザリオ
2026 年 10 月 3、4 日
東京バプテスト教会

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018